

Summer みほつだよ!

江ノ島電鉄 台湾「平溪線」と提携、 1日乗車券を交換

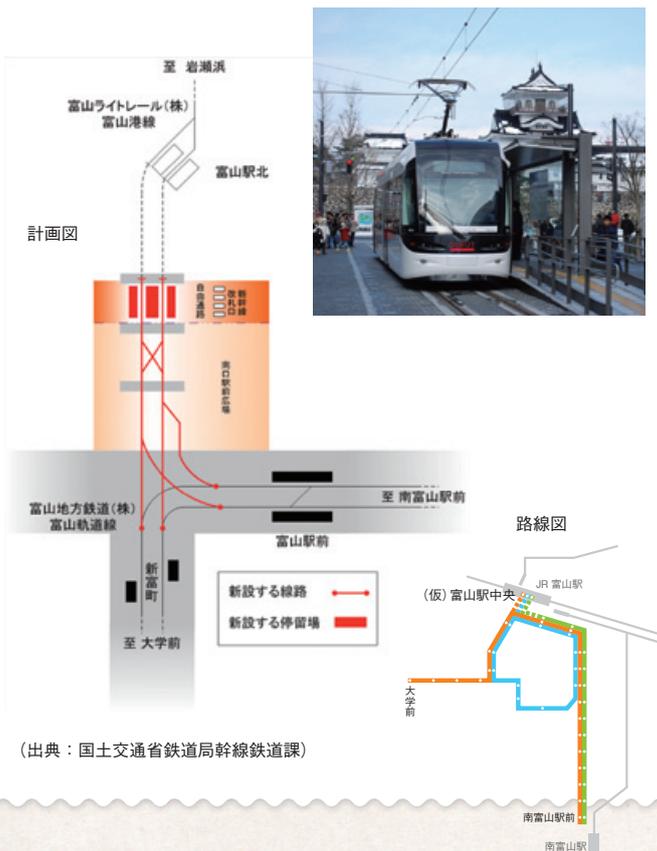
江ノ島電鉄では、台湾の観光鉄道として知られる平溪線（へいけいせん・ピンシーシェン）と提携、互いの使用済み1日乗車券を交換できるサービスを実施している。江ノ島電鉄と台湾鐵路管理局が締結した観光連携協定の一環として行われているもので、海を越えためずらしい取り組みとして注目を集めている。

平溪線は、台湾北部の溪流沿いを走る12.9kmのローカル線で、日本統治下の1921年に炭坑専用線として開業。当時の日本式木造駅「青桐駅」や線路沿いに商店が並ぶ「十分駅」などの観光スポットが人気を集め、週末には「台湾のナイアガラ」と呼ばれる「十分瀑布」を訪れるハイカーで賑わっている。

協定では、江ノ電の使用済み「1日乗車券のりおりくん（大人580円）」を、台湾・台北駅または瑞芳駅にパスポートとともに持参すると「平溪線一日周遊券」が無償で提供され、同様に平溪線の使用済み一日周遊券は、江ノ電藤沢駅・江ノ島駅・鎌倉駅で江ノ電の1日乗車券と交換できる。実施期間は2014年3月31日まで。連携協定は、互いに観光に関わる宣伝活動や誘客などで協力し、日本と台湾との友好関係を深めていくことを目的としている。



江ノ電1日乗車券のりおりくん



富山地方鉄道 国土交通省 「軌道運送高度化実施計画」を認定

国土交通省は、富山市および富山地方鉄道が申請していた「軌道運送高度化実施計画」の認定申請事業について、4月26日、申請通り認定した。

申請事業は、JR富山駅と富山地方鉄道の電鉄富山駅の高架化にあわせて行うもので、新幹線高架下に新設予定の「富山駅中央（仮）」電停から富山地鉄接続点までの0.16kmに、複線の軌道を整備する。開業予定は2014年度末で、開業後は富山地鉄富山軌道線の全電車が富山駅中央電停まで運行する。

延伸部分には「上下分離方式」を導入し、軌道施設の整備に必要な建設費および軌道施設の設備更新費は富山市が、運転・運輸費やLRVの導入・保有にかかる費用は富山地鉄が負担する。事業費は富山市が8億6200万円、富山地方鉄道が10億5000万円。富山地鉄は2014～2019年度にかけてLRVを2両導入する予定だ。

富山市内の路面電車では、このほかにも富山駅中央電停を経由することによる富山ライトレールと富山地鉄富山軌道線の接続が計画されている。

(出典：国土交通省鉄道局幹線鉄道課)

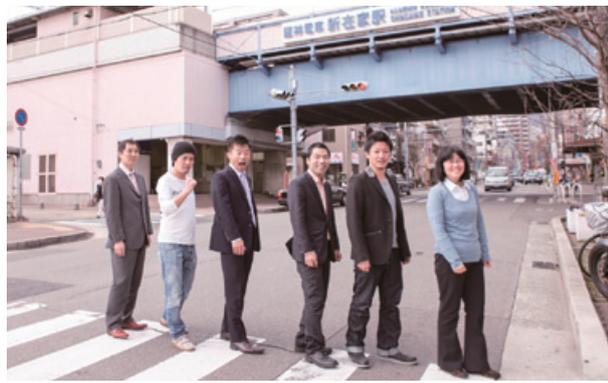
阪急電鉄 4 駅の駅名を変更し、 駅ナンバリングを導入

阪急電鉄では、京都本線の大山崎駅—長岡天神駅間で 2013 年 12 月 21 日に予定している「西山天王山」駅開業にあわせ、4 駅の駅名を変更するとともに、全駅で駅ナンバリングを導入する。

駅名を変更するのは、神戸本線の三宮駅、宝塚本線の服部駅と中山駅、嵐山線の松尾駅の 4 駅。三宮駅は、観光都市神戸の中心地であることを明確にするため「神戸三宮」駅に変更。残りの 3 駅は、駅直近の社寺仏閣等にちなみ、服部駅を「服部天神」駅に、中山駅を「中山観音」駅に、松尾駅を「松尾大社」駅に変更する。沿線外、さらには近年増加傾向にある外国からの利用者に対し、駅のロケーションや駅直近の歴史的観光資源を分かりやすく案内することがねらいだ。

また、駅ナンバリング対象駅は 87 駅で、会社名を示すアルファベット「HK」と 2 桁の駅番号の組み合わせで表示する。例えば、梅田駅は「HK-01」、宝塚駅は「HK-56」、嵐山駅は「HK-98」となる。駅ナンバリングは、ホームの駅名看板類や駅掲出の運賃表、駅・車内の路線図や車内案内モニターなどに掲出していく。

西山天王山駅開業にあわせ駅名変更する 4 駅 (2013 年 12 月 21 日予定)



写真上／新在家駅高架下に出店するオーナーたち
写真下／左からモチノキ、サクラ、アカシアの「38 はちみつ」

阪神電気鉄道 新在家高架下店舗オープン、 はちみつ新商品も続々

「みんてつ Vol.45 春号」の特集で紹介した阪神電鉄の「ソダッテ阪神沿線 新在家編」では、新在家駅高架下に 6 店舗の出店が決定。5 月 29 日、オープンした。

「ソダッテ阪神沿線 新在家編」は、個人からの少額投資の仕組みである「マイクロ投資」を活用して、高架下店舗の開業を支援する住民参加型の沿線活性化プロジェクト。審査を経て、窯焼きピッツアや串焼きの店など、6 店舗が選抜された。新在家に“縁”や“想い”を持つ出店者のチャレンジで、地域の新たな賑わい創出とコミュニティの形成が期待されている。

また、同特集で紹介した「阪神電車みつばちプロジェクト」では、新商品として瓶詰はちみつ「38 はちみつ」、魔法のコンフィチュール 嵐(おろし)を販売している。「38 はちみつ」は、アカシア、モチノキ、サクラの種類ごとに瓶詰めしたもので、名前の「38」は阪神電鉄が開業した明治 38 (1905) 年にちなみ、ラベルには開業当時を連想させるクラシカルな沿線風景のイラストを使用している。「魔法のコンフィチュール 嵐」は、パンに塗る以外にも、飲み物に足したり料理のソースとして使うなど、幅広い用途で楽しむことができる。阪神電鉄では、今後も「38 はちみつ」を使った商品を考案・販売し、沿線の魅力を伝えていく方針だ。

※フランス語で「ジャム」のこと。